



# 宮農情報

第11号 平成25年4月5日

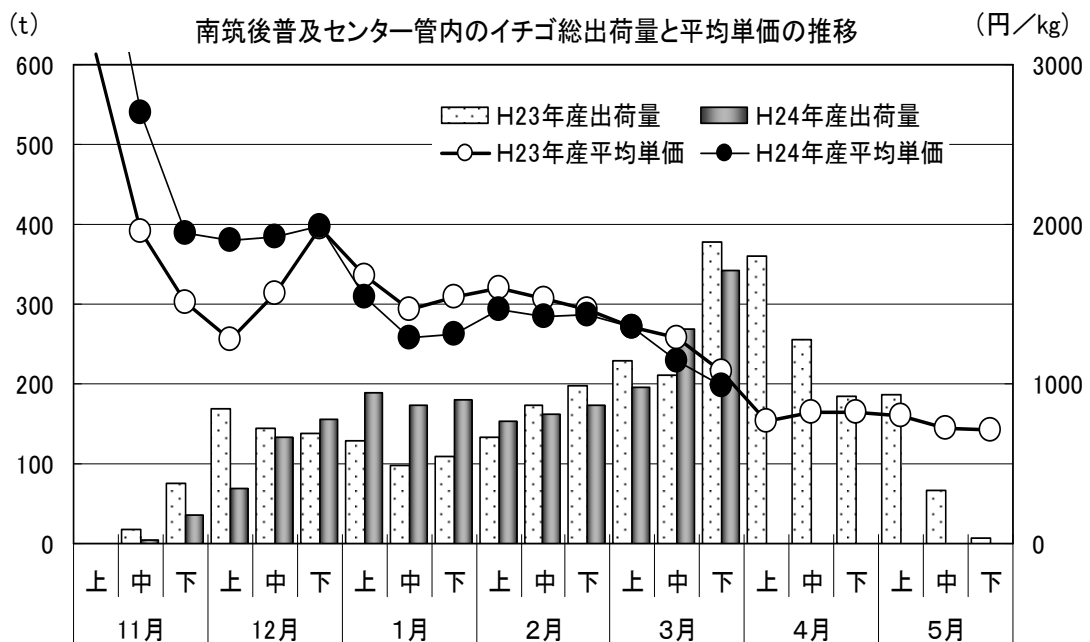
## 「あまおう」4月の管理

南筑後普及指導センター  
福岡大城農業協同組合

3月に入り日照時間が多く、果実の成熟が日に日に早くなってきました。今作は2番～3番花房のバラツキが大きく、現在の生育状況は、早期作型で2番収穫後半～3番収穫中盤、普通作型で2番収穫中盤～3番収穫始めとなっています。また、4番果房は、早期作型で着果中心、普通ポットで出蕾始めと比較的早期作型が順調に生育しています。

今後は気温が高く、日射しが強くなるため、過熟果・傷み果の発生が心配されます。妻面の開放や遮光資材等の活用による降温対策を行って下さい。また、病害虫では、ハダニとスリップスの発生が多く見られます。これからはうどんこ病の発生にも注意が必要です。

親株は心葉が動き出しており、ランナーが発生し始めたほ場も見られます。炭そ病の菌も活動し始めますので、定期的な防除を行って下さい。



# 本ほ管理

## 1 かん水管理

- ◇ かん水は少量多回数を励行する。温度上昇とともに蒸散量が多くなるため、かん水量を徐々に増やし、水分が不足しないように注意する（目安はpFメーターで1.7～1.8）。
- ◇ 品質維持（日持ち・食味）のため収穫前日のかん水は控え、収穫直後のかん水を励行する。

## 2 果梗の除去と花だし・玉だし

- ◇ 傷果防止のため、収穫が終了した果梗を除去する。ただし、無理に取ると他の果実に傷が付くため、除去しにくい場合は、はさみ等を使用する。
- ◇ 株が立ち上がり、果実が葉の下に隠れると、黄種果や軟果の原因になる。果実に光が当たるように葉よけや摘葉を行い、花だし・玉だしを行う。

## 3 軟果対策

**温度上昇等により軟果の発生が多くなるので、以下の点に注意し、果実品質の維持を図る。**

**特に、降雨後や軟弱徒長傾向の株、成り疲れ株での発生が多くなるので注意する。**

- ◇ 収穫遅れによる「過熟果」「傷み果」の発生防止のため、「収穫間隔の短縮」「着色基準の厳守」を心がける。

- ◇ 収穫した果実が傷まないよう、収穫箱内での積み重ねは避ける。**(オセ、スレ防止)**

- ◇ 収穫後は早めに低温の場所に移す。温度の高い場所に長時間放置しない。

- ◇ 晴天日はサイド・谷・妻面の換気を早朝から行い、低温で管理する。  
(夜温が7℃以上の場合は、夜間も開放状態とする)

- ◇ 降雨時は、雨が降り込まないように注意してサイドや妻面換気を行い、湿度を下げる。

〈温度管理の目安〉

	管理温度	
昼間	午前	18～20℃
	午後	18℃以下
夜間	5℃	

- ◇ 遮光資材（寒冷紗、塗布剤）を活用し、温度上昇を抑える。遮光が強すぎると黄種果の発生が助長されるため、ビニールへの塗布は1回目に薄めに行い、日差しが強くなった頃に追加塗布する方法が望ましい。

#### 4 ハダニ類の防除

- ◇ 今年度はハダニの発生が非常に多い。ハダニが発生している株は、強めの摘葉後、葉裏まで付着するよう丁寧に薬剤を散布する。多発している株は、株ごと除去する。

#### 5 スリップス類の防除

- ◇ 3月上旬より、スリップスの発生がみられる。今後は、ハウス外からの飛び込みも増加すると考えられるため、定期的に薬剤防除を行う（ミツバチを返却するまでは、IGR剤を中心に使用する）。

#### 6 うどんこ病の防除

- ◇ 年内からうどんこ病の発生しているハウスが散見されており、今後とも、発生が増える可能性がある。発病を認めた場合には、罹病葉や病果を速やかにハウス外に持ち出し、葉裏まで付着するよう丁寧に薬剤散布する。多発している株は、株ごと除去する。

#### 7 日焼け果・果実の煮え

- ◇ 雨が続き、ハウス内の湿度が高まり、果実表面に水滴が付いたような状態の翌日に快晴で温度が急に上昇した時に発生しやすい。
- ◇ 谷換気により、直射日光が当たる谷から2列目の畝やハウス中央部にかけて発生が多い。
- ◇ 日焼け果は果実表面が白や銀色になり、果実の煮えは全体的に暗黒化する。
- ◇ 対策としては、曇雨天後の晴天に注意し、換気や遮光を行って果実温度の上昇を避ける。

## 専用親株の管理

**健全な苗を育成するためには、親株管理が最も重要です。ランナー発生前からの薬剤防除を中心とした「炭そ病対策」と、親株の順調な生育を促す栽培管理を行って下さい。**

## 1 「炭そ病」対策（「炭そ病」はランナーが活発に発生している時期に感染しやすい。）

- ◇ 「炭そ病」予防のため、ランナー発生前から10日に1回を目安として薬剤散布を行う（三潴大城地区苺連絡協議会平成25年4月作成『イチゴ薬剤防除こよみ』を参考にして下さい）。
- ◇ 病原菌は、古葉や果実を摘除した傷口から侵入しやすいので、降雨直前の作業はなるべく控え、摘除作業後は必ず降雨前に、薬剤散布を行う。
- ◇ 畝面に全面マルチを行い、土と遮断する。さしポットの場合は、切りワラを敷き詰める。



畝面に切りワラを敷き詰め、かん水施設を設置

## 2 その他管理

- ◇ ランナー発生前に、古葉を摘除する。
- ◇ プランター等で親株を育成する場合、IB化成を4月上旬までに10粒/株（1回目）、5月上旬までに5～10粒/株（2回目）を施用する。
- ◇ ランナー発生期の4～5月に乾燥すると、生育遅れやランナー数の減少を招き、採苗時期の遅れ・採苗本数不足の原因となる。水分が不足しないように、かん水設備を準備しておく。
- ◇ 排水対策用の溝を、必ず整備する。
- ◇ マルチの隙間から出た親株周辺の雑草は、手作業で除草を行う。
- ◇ 棚式育苗の架台下の除草、排水対策を行う。

### 〈親株の果実形質確認について〉

- 近隣の産地では果実が長く、種が窪んだ‘あまおう’が見つっています。
- 形や色の揃った‘あまおう’を生産するためにも、親株に果実をつけて形質確認し、疑わしいものは連絡をお願い致します。

### 重点啓発事項(スローガン)

- 1 散布前は必ず農薬ラベルの確認と飛散防止の徹底！
- 2 散布後は必ず散布器具(タンク等)の洗浄と防除履歴の記帳！